

令和4年度第3回千葉市政策評価部会 議事要旨

1 日 時 令和5年1月16日（月）13時30分～15時00分

2 場 所 千葉市中央コミュニティセンター 7階 「7-1会議室」

3 参加者 ≪委員≫6名

石丸 美奈委員、岩崎 久美子委員、菊地 端夫委員、
鈴木 雅之委員、林 暁甫委員、松永 哲也委員（五十音順）

≪事務局≫6名

神崎 総合政策局長、堺 総合政策部長、濤岡 政策企画課長、佐藤 課長補佐、
平野政策企画課主査、松崎 政策企画課主査

4 議 題

- (1) 第2回政策評価部会における委員意見の対応の方向性
- (2) 政策評価（方向性1）について
- (3) その他

5 議事概要

- (1) 第2回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について
第2回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、事務局から説明を行った。
- (2) 政策評価（方向性1）について
政策評価シート1-1から1-3について、事務局から説明を行った。
- (3) その他
今後のスケジュールについて事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）第2回政策評価部会における委員意見の対応の方向性

（事務局）第2回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、資料1-1及び資料1-2をもとに説明を行った。

<意見交換>

意見なし

議題（2）政策評価（方向性1）について

（事務局）政策評価（方向性1）について、資料2をもとに説明を行った。

<意見交換>

松永委員

シート1-1、5ページの「今後感染症が収束することを見据え、減少した利用者の回復とさらなる増加に向けた取組みを推進する」とあることについて、今後の感染症の動向

が不透明であるなか、この記載では、感染症が収束するまでは何もやりませんとも読めてしまいます。「感染症が収束することを見据え」ではなく、「ウィズコロナを前提に」であるとか、「ウィズコロナの時代を踏まえて」といった記載に変えた方が良いのではと思っております。

2点目は、9ページの図表の数字について確認をしたいと思っています。上から3番目の身近な公園の緑について、肯定が71.8%、否定が60.7%、合計すると130%と100%を超えている一方、括弧内の数字を見ると、肯定が1,648、否定が342なので、パーセンテージが正しいのか、それとも括弧内の数字が正しいのか、評価が変わってくるのでもう一度確認いただければと思います。

3点目は、10ページの身近な公園の緑について肯定的な意見が多いということで、その背景の一つとして、人口1人当たりの都市公園の面積が政令市の中でも大きいことについてはそうだと思います。ただ、千葉市は、都市部と農村部の特徴をあわせ持った都市で、緑区や若葉区、美浜区に割と公園が多いのでおそらくそうなると思うのですが、中央区は肯定的な声が多くないと思っておりまして、区によっても評価が変わると思いました。区民1人当たりの公園の面積を比較したうえで、区によって肯定的な意見に偏りがある場合は、それをならすように公園面積が少ない区の整備をやっていただきたいと思います。

4点目は、15ページで電気自動車が普及していることについて、否定的な数字が多くちょっと残念だと思います。国家戦略特区の取組みの一つとして電気自動車の実証実験を行っているのですが、それが市民に知られていないのは残念だと思いました。また、次世代自動車が市内で普及しない理由の一つとして、市内に水素自動車の水素ステーションや、電気自動車の給電所が少ないということもあると思います。これは市の努力だけでどうにもならないところもありますが、民間企業とも連携しながら、水素ステーションや電気自動車の給電所を増やす取組みをやっていただければと思います。

最後に18ページ、再生可能エネルギーの考察において「太陽光発電だけでなく、あらゆる再生可能エネルギーの活用を排除せず、導入拡大に向けた検討を行う必要がある。」とあり、もし具体的に太陽光以外の再生可能エネルギーがあるのであれば記載すべきと思います。太陽光以外のエネルギーとしては、市内に風力設備はなく、バイオマスも欧州では再生可能エネルギーと認めない例もあり、太陽光以外にはなかなか無いのでは思うところですが、導入拡大に向けた検討の必要があるということであれば、具体的に書いた方がよいと思います。

政策企画課長

まず、「今後感染症が収束することを見据え～」とした考察についてですが、市としてはコロナの収束を待っているわけではなく、例えば稲毛海浜公園ではイベントを徐々に行ってきているところです。ただ、コロナがその後どうなるかは分からないので、政策評価シートに記載ぶりについては検討したいと思います。

次に、9ページの図表は全体にかかる部分となりますが、図表の見方が分かりづらいところもあるかと思っています。こちらの図表では、肯定と答えた人のうち、どれくらいの人がある項目を選択したか、否定と答えた人のうち、どれくらいの人がある項目を選択したかについて割合と括弧内に実数を記載しています。肯定と否定のそれぞれにおいて、選択項目のなかでどの項目が多かったのかを表すために、それぞれひとつのグラフにまとめているところです。

続いて10ページの都市公園の面積について、確かに1人当たり面積は区によって変わってくると思います。一方、現実的には、例えば中央区の方が美浜区の稲毛海浜公園を利

	<p>用するなど、広域的な利用が考えられるところです。市全体として公園が整備されていることが評価されていると考えておりますが、区ごとの面積についての分析は、今後の公園の政策を考えるうえでベースとなり得るので確認したいと思います。</p> <p>16ページの電気自動車の取組みですが、国家戦略特区等の取組みがなかなか認知されていないことについては、積極的に市民向けPRしていく必要があると考えています。</p> <p>電気自動車に関しては、普及に当たり現状は給電施設がネックになると認識しており、集合住宅への補助などの検討を進めているところです。ハード整備も含め施策に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>18ページの再生可能エネルギーの活用について、バイオマスは脱炭素先行地域の取組みのひとつとして位置付けています。また、太陽光などの発電については、千葉市内で完結するものではなく広域的に連携することが重要だと考えています。例えば、県における洋上風力の地域間の連携もあり得ると考えておまして、また、政令市のレベルで地方との再生可能エネルギーの連携なども考えられます。これらを踏まえ、考察の記載を検討したいと考えております。</p>
岩崎委員	<p>松永委員と同じ意見で、区の状況によって結果が異なると思われる項目については、区ごとにクロス集計を行い、その結果に基づいて考察を行った方がよいと思います。クロス集計の値を全て書くというわけではなく、違いが歴然としてるところは考察の根拠にするということです。</p> <p>例えば、2ページ1-1の「散策できる川辺がある」ですが、これは、6ページに花見川区のデータが示されており、居住区別で見ると花見川区では肯定的に評価され特別高い評価がなされていることに言及されているのはいいと思いますが、7ページで、総論的に「理由は明らかではないものの市民が川や川辺に触れ合う機会が十分でない可能性がある」というところの「理由は明らかではないものの」という記載が気になります。この質問は、散策できる川辺があるかないかという区の自然環境に依存する回答なので、「理由は明らかではないものの」とするのではなく、「十分に触れ合う機会がない可能性がある」とか「と推測される」という表現で解釈を試みるのが望ましいと思います。</p> <p>同様に、9ページの1-2に関しても、地域の環境に依存するであろう回答にバイアスがかかる項目があります。それは、「身近な」という言葉です。「身近な公園の緑」という項目は、住宅地に身近な森林があるかどうかで回答が左右されます。「身近な」という言葉が入っている質問項目は、区ごとに分析されて、身近に公園や森林がある地域と無い地域に関しては、考察において、「緑が少ないから否定的な回答になった可能性がある」など、先ほどの花見川区の結果の解釈と同様に検討されるのがよいと思います。</p>
政策企画課長	<p>委員のご指摘のとおり、川辺に関しては花見川区の結果が顕著にでています。</p> <p>市民アンケートに関しては、居住区ごとのクロス集計を行っています。設問として地域を限定し、地域差がでるような内容については、丁寧に分析したいと思います。</p>
菊地委員	<p>今回の評価の前提となっている新基本計画では、区ごとの基本計画を策定し、区ごとの特色や方向性に則って事業を取り組まれているかだと思います。この区ごとの特色や方向性に沿っているのかという観点で評価・考察をするかたちでもよいのかなと思いました。</p>
石丸委員	<p>菊地部会長の意見と同じく、全ての区で河川に対して、親しみを持たないといけないかというところが疑問に思いました。例えば、中央区の都川近くの場合では、親しみよりも水害がないとか安全が守られる河川といったことが重要視されるように思います。今の部会長の意見のように、区ごとの特性に合わせて評価がされていることが大事かと思いま</p>

	<p>した。どこも押しなべて同じような評価をされる必要があるのか、評価の基本姿勢についてお尋ねしたいなと思いました。例えば大きな河川があるところで、いい評価がされることは当然だと思いますが、それほど大きな河川がないところで同じ評価が必要なのかと思います。</p> <p>また、先ほどの幕張新都心の取組みにつきましても、幕張だけで何かされていると他の区からはうらやましい気持ちになってしまうかもしれませんが、それは国家戦略特区であって、推進され周知されることが他の区、千葉市全体にとってメリットになるというような循環があるとよいと思います。</p>
総合政策部長	<p>評価にあたっては、いろいろな側面から見る必要があると考えております。区の魅力や特性である面も安全安心の面も、双方評価として必要な部分だと考えております。</p> <p>本日ご審議いただいている方向性1については、緑と水辺の親しみについての角度からの評価であることから、花見川のサイクリングロードや川辺でアクティビティを楽しむ取組みを進めてきた経緯などについて触れているところです。</p> <p>また、今後においては、花見川以外の都川水系、鹿島川水系についても、それぞれの河川の特徴を活かしながら親しみを得られるような取組みを進めていきたいと思っています。</p> <p>区の特性については、ご意見いただいたとおり広域的な活用の観点も踏まえ評価を行っていきたくと考えております。アンケートでは全ての項目についてクロス集計を行って特徴的なところを評価に記載していますので、改めて点検をしてみたいと思います。</p>
菊地委員	<p>目標があってそれに対する評価であるので、一面的な評価となるところはあると思います。ただその面だけ見ているわけではないことがにじみでるような考察としていただけるとよいと思います。</p>
鈴木委員	<p>千葉市の1人当たりの1日のごみの量が、川口市と比べ150gほど多い結果となっておりますが、その理由が政策評価シートではあまり明確ではないと思いました。行政活動実績評価シートで剪定ごみなどのごみの出しやすさについて記載がありますが、このことが理由なのかは不明でした。</p> <p>理由が明確になっていないところで、これを減少させるという言い方が気になりましたので、原因をしっかりと分析した上で、課題を解決するような方向性に取り組んでいただきたいと思っています。</p>
政策企画課長	<p>1人当たりのごみ排出量について、政令市で比較すると千葉市は一貫して多い結果となっております。19ページのとおり、その排出量は家庭系ごみと事業系ごみとを合わせた数字となっております。令和2年は家庭系ごみが629g/人・日、事業系ごみが312g/人・日となっております。</p> <p>他市との比較において、家庭系ごみに関してはそれほど大きく変わらず、事業系の方が多くなっていると聞いておりますが、原因を含め所管部署とも確認をしたうえで評価シートに反映していきたいと思っています。</p>
菊地委員	<p>一般廃棄物処理実態調査では、市で収集する事業系ごみ以外に許可された民間事業者が収集する事業系ごみを含めて計上するかどうかするか、また事業系ごみの処理についてどちらが主であるかによって状況は自治体ごとと変わってくる可能性もあります。もしくは廃棄物を排出しやすい事業者が集積しているということがあるのか、実態も含め確認いただければと思います。</p>
林委員	<p>植える緑について、例えば木からフルーツがなったりとか、食べられるものだったりしないのかなと疑問に思っていました。</p>

	<p>海外ではフルーツなどの食べられるものを採取して、高齢者が多い地域でコミュニティをつくっていくといったアートプロジェクトがあります。全部食べられるものもいいということではなく簡単なことではないと思いますが、今後、何かを植えるときにそれがコミュニティにどういった役割を持たせることができるのかという視点も大事かと思いました。</p> <p>単なる景観としてだけでなく、その緑があることで、みんなで面倒を見る仕組みを作って、人と人が話をする機会を作るといったこともよいと思います。何を植えるのかというところも大事なことかなと思いました。</p>
総合政策部長	<p>実がなる木という、市民の笑顔が浮かぶような素敵なお提案をいただいたと思います。一方で、植える場所などは議論が必要な部分があると思いますし、街路樹には制限があるところもあります。また、公園は地域の方や利用者から毛虫や落ち葉などのご意見をいただくこともあります。</p> <p>地域の方々との管理面での協働ということが前提となりますが、こういったパークマネジメントについては、これから市としても積極的に働きかける必要があると考えています。</p> <p>そのうえで、どんな木がいいのか、公園をつくる段階から話ができればと思いますので所管部署にも伝え、検討してまいりたいと思います。</p>
林委員	<p>葉が落ちて市に片付けを求める声が集まるのではなく、みんなで焼き芋をやったらどうかといった話がでるまちになれば素敵だなと思いました。どうすればまちが素敵になるかという方向で考えられる、人の温度が感じられる千葉市になっていったらいいなと思いました。</p>
菊地委員	<p>客観指標について稲毛海岸公園の利用者数、都市公園の有料公園の利用者数、ともに未達成ですが、令和2年はコロナが始まった時期であり、我々のまちの過ごし方がそれ以前の時期より異なっていたと思います。</p> <p>出入りをコントロールできる有料施設は密にならないよう市として閉鎖をしていた施設もあるかと思いますが、出入り自由な大規模な公園は令和2年4月、5月の緊急事態宣言時には身近な公園、かつオープンスペースということで多くの人々が子どもを連れて利用したと思います。</p> <p>客観指標は有料施設の利用数などどうしてもデータをとりやすいものとなってしまいますが、客観指標では未達成だけでもアンケート調査では評価が高いことのずれを感じたところです。指標化するのは難しいとは思いますが、令和2年は多くの市民にとって新たなまちの過ごし方を発見する1年であったと思うので、ここから浮かび上がってくるまちの使われ方を今後の参考にさせていただきたいと思いました。</p>
石丸委員	<p>老朽化した遊具の更新数に関する指標ですが、老朽化した遊具は当然に更新されるべきものだと思いますので、なぜ指標としているのかお伺いします。</p> <p>また、17ページのカーボンニュートラルを目指すということについて、可能性のあることですし、千葉市も脱炭素先行地域にも指定され素晴らしいことと思います。気候危機に立ち向かう行動を進めていくとありますが、我々に具体的にどういう行動を求めているかを記載すると分かりやすいかと思います。地球温暖化が進むと日本においても、感染症が増加する可能性があるなど、健康や福祉などの幅の広い問題であるので、環境部門の方だけでなくみんなで取り組んでいければよいと思います。</p>
政策企画課長	<p>菊地部会長のご意見のとおり、身近な公園について客観指標としては取りづらい部分ではありますが、感覚的にはコロナの初期には公園に多く人がいたと思います。</p>

	<p>数値が把握できるものとして有料公園施設の利用者を指標としていますが、コロナの時期には閉鎖してしまっていたので目標に届かなかったところです。次期計画において、身近な公園についてもなんらかのかたちで評価ができないか検討してまいりたいと思います。</p> <p>8ページの老朽化された遊具については、主に児童公園となりますが利用者が安全に遊具を使えるか、管理が手付かずとなっていないかを示すという観点で指標を設定しております。</p> <p>また、17ページのカーボンニュートラルの達成については、まさに全庁的に総力戦で取り組んでいかなければいけない課題だと考えております。例えば、企業の脱炭素の取組みの促進や電気自動車などの給電施設整備の支援のほか、市民に対しての普及啓発の取組みも進めているところです。環境部門だけでなく全庁的に取組みを進める必要があるものと考えており、評価においても具体的な取組みの記載について検討してまいります。</p>
総合政策部長	<p>老朽化した遊具の更新については、単純な耐用年数だけではなく、現場の状況も踏まえ更新をしていきますが、なかには公園で子どもたちが遊ぶなか、使用禁止と張り紙のある遊具があるといったところもあり、利用者の満足度に直結する部分でもあるので指標として採用しております。</p>
石丸委員	<p>老朽化した遊具を安全に管理した数などと表現を工夫できればよいかと思いました。</p>
林委員	<p>第1回部会で配布された参考資料の客観指標一覧をみて気になったことについてお伺いします。これまでの部会では方向性ごとの個別の議論をしてきたところですが、評価の全体感としては、市民の満足度はどうだったかなどの指標はとっているのでしょうか。</p>
政策企画課長	<p>実施した市民アンケートについて、これまでの各方向性の議論では分野別のアンケート結果をもとにご議論いただいておりましたが、本アンケートでは千葉市での生活全体について、生活に満足しているか、これからも住み続けたいかということをお伺いしております。満足度、住み続けたい意向どちらも、ほとんどの人が満足である、住み続けたいと回答しており、前回実施した3年前よりも上がっている結果となっています。個別の施策の評価にもつながっているところもあるかと思いますが、全体の評価についても参考にしているところです。</p>
林委員	<p>例えば、交通機関の利便性が上がったということと、それによって静かな環境がなくなったということは人によって視点が変わってくると思います。</p> <p>全て個別の結果としてみてしまったときに、利便性はとてもよいが、静かな環境がなくなってマイナスになるということが繋がってこないといったことも多々あるなかで、どういった理由で9割近い方がこれからも住み続けたいという意向となったのか、何か全体感をもって示せればと思いました。</p>
菊地委員	<p>住み続けたいという意向について、他市のデータを分析した際には年齢が高いほど定住意向も高くなるという相関関係がみられたこともありました。もちろんそれ以外の要素もあるかと思いますが、より突っ込んだ分析は今後の課題かと思います。</p>

議題（3）その他

（事務局）今後のスケジュール及び議事録の確定方法について、事務局より説明した。

—閉会—